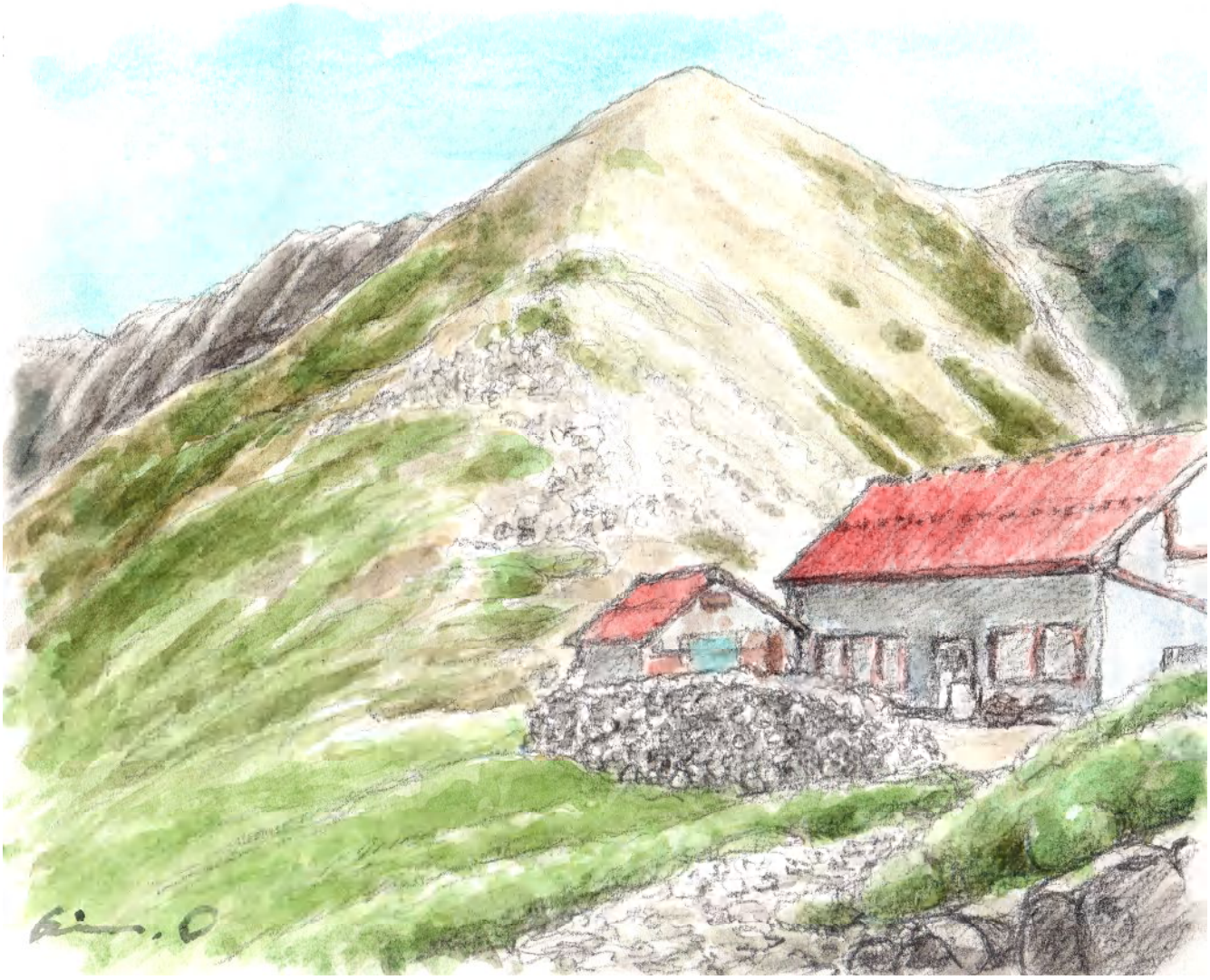
会報　日本勤労者山岳連盟・新日本スポーツ連盟

三島野スポーツクラブ

No. 134

2011 年 11 月 1 日
代表　岩井　富雄
射水市宝町 1364-35
TEL・FAX 57-8180



薬師岳・薬師岳山荘　　小木　　清　画

今月号の主な記事

11 月と 12 月の企画案内

紅葉の赤兎山

ロープワークをまなぶ
講習案内

初冬の二上山
＆　忘年会

山行報告

早月尾根　剱岳

交流登山戸隠山
思い出の戸隠山
E・A

会員からの登山レポート
◇ T・K
◇ H・K
◇ K・O

11月の企画

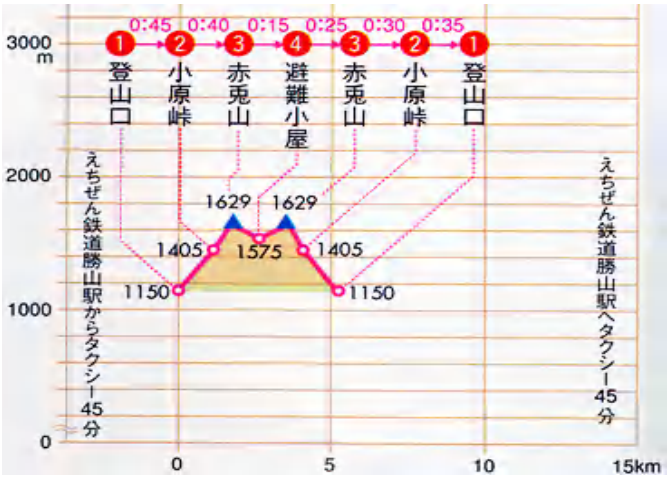
11/3（祝・木） 赤 兎 山 あかうさぎやま 1,629m

紅葉の赤兎平と白山遠望

【集合・出発】6時00分　薬勝寺P
【行　程】
登山口 9：00 ⟶ 小原峠 9：50 ⟶ 赤兎山 10：30 ⟶ 赤兎避難小屋 11：00～11：30 ⟶ 赤兎山 12：00 ⟶ うさぎ平 12：15 ⟶ 赤兎山 12：40 ⟶ 小原峠 13：15 ⟶ 登山口 14：20
標高差 479m　技術度★☆☆☆☆　　体力度★★☆☆☆
L:堀井泰則
【参加申込】先号№133で10／27としていましたが
10月31日まで岩井 FAX57-8180
又は堀井 FAX25-2792とします。

植林の越前禅定道（修験道）を谷沿に登って行くと、ブナ・カエデ等の樹林となって、今が盛りの紅葉に目が奪われる。そして、小原峠を目指す。

ブナに囲まれた小原峠に着くと大長山との分岐。西に少し下ったお地蔵さんがあるところからは樹木越しに白山が望まれる。



兎平の紅葉と避難小屋

ロープワーク講習会

今までに一度も山での事故を起さなかったのは、私自身もあなたもただ運が良かっただけで明日の山行は何が起こるか解りません。あやふやな自然界は危険が蔓延る温床なのはご存知でしょう。危険な場所に近寄らないのではなく、少ししかない安全な場所を見つけ、そして安全な方法で非常事態から抜け出さなければなりません。

そんな時のためロープはあなたの命を守ってくれる最高の安全用具です。ロープを使えばどんな恐い場所でも安全に簡単に登降出来ます。

- **11月21日（月）**
  午後7時30分から（1時間程）
- **小杉ふれあいセンター**

「危険な山に登らないから…」と考えていませんか？知っていると得する会員必須の技術で

12/11(日) 冬枯れの二上山を歩く & 忘年会

二上山ハイキング

里山の木々が葉を落とし“あいの風”が吹きつける。そんな初冬の二上山を歩き、ふるさとの山を愛しむ。

【行　程（案）】

JR 伏木駅 → 勝興寺 → 平和の鐘 → 大師ヶ岳入口 → 大師ヶ岳頂上 → 国泰寺 → 自然休養村 → 義経岩 → JR 雨晴駅 → JR 国分駅 →越の庭へ

（歩行距離：約 14km、歩行時間：約 4 時間）

【集合・出発】

JR 伏木駅に 8 時 30 分集合。

北陸本線　小杉発 7：48 → 高岡着 8：04（乗換）

氷見線　　高岡発 8：08 → 伏木着 8：20

を利用すると便利です。

【参加申込】

12 月 3 日（土）までに　FAX 57-8180　岩井まで

2011 忘年会

と　き　二上山ハイキングの後　♨に入ってから
15 時 30 分より

ところ　**越中国分「越の庭」**

会　費　**5,500 円**

【参加申込】

12 月 3 日（土）までに　FAX 57-8180　岩井まで

越の庭　TEL　44-7739

宴の終了後の JR 氷見線　乗車便

越中国分発　18：11

高岡着　　18：27

北陸線　小杉行は 18：30 発

この一年、あなたにとってどんな年でしたか？

この一年、どんなことで心が満たされ、どんなことで心が痛みましたか？

この一年、どんな山に登り、どんな景色をみましたか？

そんな一年を振り返り、そして、次の一年のあらたな希望と目標を語り合いましょう。酒を酌み交わしながら…。

2010　上高地

2011　木曽駒ヶ岳

山行報告

自主企画　９/24（土）～25（日）

剱　岳

2,999m　早月尾根から挑

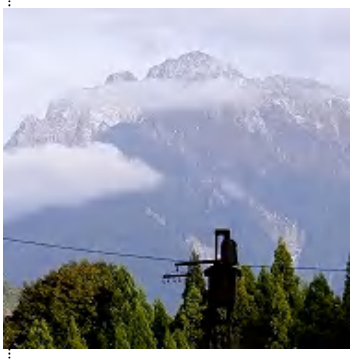
【メンバー】

L・M・K、K・S、T・S、S・H、K・M

【行　程】

1日目　薬勝寺 P6：00 ⟶ 馬場島 7：05～7：25 ⟶ 松尾平 8：10 ⟶ 1,400m地点 9：40 ⟶ 小屋跡 11：45 ⟶ 早月小屋 13：00

2日目　早月小屋 5：35 ⟶ 2,800m地点 7：50 ⟶ 剱岳山頂 8：45～9：10 ⟶ 2,600m地点 10：40 ⟶ 早月小屋 11：45～12：15 ⟶ 松尾平 15：30 ⟶ 馬場島 16：05



馬場島から仰ぐ

ひとくち感想

M・K　４年ぶりの早月尾根からの剱岳でした。以前と比べて体力は落ちていたが、何とか頂上に立てました。感動！

K・S　体調悪く頂上に立てなかった。残念！！再度挑戦します。

S・H　初めての早月尾根でした。大変でしたが天候に恵まれて良かったです。

T・S　６回目にして初めての快晴。大変良かった。

K・M　剱岳は５回目のチャレンジでした。富士山も見れて大満足でした。

快晴の剱岳

K・M

馬場島登山口の観音様に登山の無事を祈り、隊列を組んでゆっくりと早月小屋をめざして歩き始めた。松尾平で長めの休憩をとり、気合を入れて再び登りはじめる。天候もよく順調に高度をかせぎ、予定通り伝蔵小屋に到着した。

北方稜線・小窓尾根

遅めの昼食となり、最後の急坂を登ったら剱岳山頂。剱岳からの北方稜線の説明を聞きながらその稜線を目でなぞった。猫又山、釜谷山を眺め、すぐ目の前に先日登った大日岳と大日小屋を仰ぎ、眼下に見えるはずの富山平野が見事な雲海でおおわれていました。

早めに小屋に入って、明日のために体力の温存。夕食後、日の入りを見る。珍しいダルマになった太陽が沈んでいく。この光景を見るみんなが“ウォー”と感あげた。生まれてはじめて見た夕日でした。

黒川 L の情報では前日降った雪で岩が凍結したため、頂上をめざした人たちが滑落の危険を回避し、頂上目前で引き返したとのことでした。今晩晴れれば明日の登頂は大丈夫とのこと。それを願って就寝。

朝早々に出発し、頂上に立つことができた。今まで何回も北アルプスの峰々に立ったが、富士山を見ることができたのははじめてでした。富山平野、日本海、槍、笠、白馬など 360 度の大パノラマに感動し、目に焼き付けました。

剱　岳〈早月尾根〉――リーダーの反省と決意　　M･K

勤めている会社の事情で事務職となって、体力の低下があったにもかかわらず、“登れるだろう”と判断しリーダーを引き受けた。が、内心『ほんとうに登れるか？』『長い下りを無事に下れるだろうか？』という心配がありました。

実際の山行では１日目の早月小屋まで､翌日の頂上までの登りと早月小屋までの帰路は体力的になんとかなった。そこから先の馬場島までの長い下りは、体力・脚力が「イッパイ　イッパイ」だった。早月尾根を往復するための力が不足していると思われた。

山行報告

10/8(土)･9(日)　戸隠山　1,904m

日本勤労者山岳連盟

北信越ブロック交流登山 in 戸隠高原

【メンバー】L・K･M、SL・E･A、T・I 、T･K、A･K、K･S

【行　程】

1 日目　薬勝寺 P6：55 ⟶ 戸隠 着 9：50　テント設営完了 10：05（昼食・散策・夕食）⟶ 北信越ブロック交流会 17：00～18：30（寒くてテントに入って二次会）　20：00 就寝

2 日目　5：00 起床（晴れ、0℃、降霜）朝食 6：15～40 ⟶ 出発 7：00 ⟶ 戸隠奥社 8：12 ⟶ 五十間長屋 9：20 ⟶ 八方睨 11：15（昼食） ⟶ 一不動 14：03 ⟶ キャンプ場 16：00 帰路、黒姫温泉で入浴、薬勝寺 P 帰着 21：20

戸隠山登山グループ

蟻の塔渡り

戸隠山・八方睨

ひとくち感想

T･K：天気に恵まれ、紅葉見学ができました。栂海新道山行の下山時に痛めた左ひざの具合を気にしながらでしたが無事下山でき“ホッ”としています。当分、戸隠山は敬遠です。恐ろしかったです。

A･K：戸隠山の“蟻の塔渡り”と“剣の刃渡り”そして、鎖場の連続で山岳案内書の通りでした。〈L〉に細々指示していただいて、ようやく登りきることができました。また、次回は無いと思っています。青空でとても良かったです。「鏡池散策」も良かったです。

M･K：長く続く急な鎖場、怖い“蟻の塔渡り”ヤセ尾根、下りルートの危ないトラバース。どれをとっても『第一級』の山でした。

K･S：たいへん厳しい山でした。二度と行きたくありません。

T･I：紅葉の盛りには早いと思った。鏡池からは屏風のように見えるが、登るとヤセ尾根の連続で、蟻の塔渡りはその象徴的なところでした。

W･A：戸隠山は 20 年前に登った。“不安と恐怖”の思い出深い山で、二度と登りたくない山だった。ところが今は“戸隠山最高！”。好印象の山に変わりました。

戸隠山雑感

M･K

これまで３･４度戸隠神社の奥社に訪れていた。そのたびにその奥にそびえる戸隠山を眺めては、“どんな所だろう”と思っていた。

今度初めて登って、思っていた以上に「凄い山」だと感じた。ピーク八方睨の手前のヤセ尾根「蟻の塔渡り」にもビビッたが、それ以上にそこに至るまでに何ヶ所もあるクサリ場は、その傾斜が急でけっこう難しい。その危険度は剱岳のクサリ場をしのぐものだと感じた。

八方睨手前のクサリ場でかなりバテ気味となって、“これでもか、これでもか”とあらわれる高度感のあるヤセ尾根の登山路『蟻の塔渡り』『剱の刃渡り』。“これが戸隠山だ”と思った。その後もヤセ尾根の稜線が続き、下りにも「イヤなトラバースのクサリ場」が待ち構えていた。

イヤー、たいした山だった。

蟻の塔渡り全貌

戸隠山の思い出

E･A

楽しみにしていたテント泊。車をテントサイトに横付けで重い荷物運びも無い楽チンテント泊。これに参加する手はない。…でも、あのナイフエッジのヤセ尾根だけはカンベン…。そんな気持ちで参加した今回の交流登山でした。いくつかのいくつかの登山コースの選択肢があったので、飯綱山か荒倉山、またはテントの留守番も悪くないなと、最初から逃げ腰になっていました。「キャンプはしたいし、戸隠山恐し」でした。今は自分でも不思議なくらい印象が変わって、『好感度№1、戸隠最高！』です。その変化の理由は、１回目が余りにも辛かったこと、今回は恵まれて天候の下で多くの山仲間がいて、ヤセ尾根も以外に余裕を持って通過できたことにあります。

1994・11・17(木)曇りのち晴れ。飲食店をしているＡさんに誘われ、二人とも「戸隠山」がどんな山かもよくわからずに出かけました。車を駐車し、奥社への参堂の厳かな雰囲気に感動しながら歩きはじめました。秋の終わりに近く、平日で参詣の人も少なく、登山者も我々だけでした。もう時刻も遅いので、急いで昼食をしませ登山口に向かった。そこで社務所の石垣に見た事もないほど太く、色鮮やかな毒々しい文様のマムシがゆっくりと石垣の奥へ這って消えていきました。

厳しい登りを経て、ナイフエッジの箇所まで来たとき、背筋が寒くなりました。目の前にロッククライマーしか通れないようなヤセ尾根。引き返したくても、今登ってきた険しく長い道のりを思うと戻るのも大変。どこかにトラバースできるルートがないか、目を凝らしてもありません。「何でこんなところに来てしまったんだろ」と自分の軽率さを責める気持ちと、不吉な予感が頭をかすめパニックになりそうな精神状態でした。“ここでどちらかが弱気の言葉を吐いたら絶対遭難する”と努めて平静を装って相談し、前に進むことにしました。

陽は傾きかけ、こころは不安と焦り。無事に渡れるという確信もないまま、深呼吸してから、岩に手を置き尻を下ろし、両手両足で跳び箱に抱きつくような格好で少しずつ身体を前にずらしながら進みました。ぶざまな格好ですがもう必死です。頭の中は真っ白。ただ、岩をしっかり抱きかかえることだけに集中して…。

どうにかそこを渡り終え、一息ついてから先を急ぎました。その後の道のりも大変でした。真っ暗闇の中をヘッドランプの灯りで一不動からの下りを、どこが登山道なのかわからず、薄氷の張った滑滝のような箇所をイチカバチカの気分でトラバースした。牧場の柵がライトに照らし出された時「嗚呼、生きて帰れた」と心底思いました。

その後も、車道歩きが待っていて、へとへとになって駐車場に着いた。すでに夜の７時半。買ったばかりの私の日産マーチが一台だけ残っていました。

帰路は国道、一般道は黄色点滅信号となっていて、ほとんどノンストップで走行し、濃すぎに着いたのは深夜の零時 15 分。

そんなことがあって、戸隠山はとても忘れられない山なのです。

今回の登山がこんなに楽しくて充実感のあったのは、明るい日差しの中、多くの仲間といっしょでにぎやかであり、コースも経験済みであったことなど条件が揃っていたからだと思います。しかし、なにより戸隠山へのリベンジが叶ったことが満足感をいっそう高めてくれたと思っています。

《追記》大きなマムシの話は、果たして 11 月中旬にいるかどうか。自分の勘違いか、とカミさんに確かめたら「何度もその話聞かされた」と面倒くさそうにあしらわれた。

戸隠奥社に行ったのは 20 年前の、あの戸隠登山とカミさんとのドライブの２回しかないが、カミさんも記憶が曖昧な様子。しかい、自分の中ではそれと戸隠登山とが一体のものとして心の中にあるのです。

会員からの登山レポート

山下りの記

K・O

過日、山の友人より「早月から剱岳登山に同行しないか」と声がかかった。昔々、その昔、おじいさんと…の頃に早月尾根を下ったことがあったが、今では登るのは無理だろうなと思案していたところ、Y女史が来て「先生、山へ行かんけ」と…。彼女は自分より年上の人を全部「先生」と呼ぶのである。なるほど広辞苑によれば（先に生まれた人）となるが…。まあ、そんなことはどうでもよいが、「どこへ行こうか？」といろいろ考えたが歳も歳なので山下りをすることになった。コースは雄山から黒部湖まで下るかなりの難コース（約7時間）である。しかし、この老いた身で“膝のことも考えんならんやろ”と話したら、彼女曰く「私と一緒なら大丈夫やて」ときた。「何が大丈夫かようわからんが？」とにかく決まった。某日、早朝に出発し、7時30分に室堂に着いて歩き始めた。室堂から雄山までは、人・ひと・人のてんこ盛りであるが、一の越から黒部湖へは無人地帯で二人の貸切である。途中、山イチゴがたわわに実り、親指大のイチゴが採り放題である。彼女は道端に黒い実のなった低木を見つけ、通称“黒豆”という。口に入れると香ばしくて甘酸っぱく美味である。

左から獅子岳、鬼岳、龍王岳

ここまではガレ場だが道が整備されているのでルンルン気分で東一の越についた。まあ‥お日柄もよく素晴らしい展望である。鬼岳や獅子岳の岩峰が倒れんばかりに迫ってくる。遠くに赤沢岳、針ノ木岳が連なり、北アルプスの大自然が満喫できる。しかし、大観峰から出入りしているロープウェーだけが自然破壊の感がまぬかれず、いささか場違いに見えてくる‥てなことを思いながら、帰りはそのロープウェーに乗ったアホでありますが…。ここからタンボ平までは少々きついくだりが続く。小生あえぎながらの歩きである。Y女史曰く「先生、もう少し早く歩かな‥日が暮れるがいねん！」とやんやの催促である。

東一の越の道標

実はなにを隠そう。Y女史は障害者一級で小生が「介護人」である。文章の書き違いではありませんぞ。彼女をサポートするのが小生の本来の“役目”の筈なのである。おわかりいただけましたかな：ホント：これでは小生のプライバシーあ・いやプライドが丸つぶれでないけ。（まあ、そんなもん無いに等しいけど）嗚呼なさけないのぉ…。

タンボ平までは人一人、猿一匹、熊にも会いませんでしたが、黒部平近くでなんと我々の前を歩いているみめ麗しき女性に会ったのであります。年の頃‥まあそんなことどうでもいいが、しかし待てよ、こんな山中での女の一人歩きとは‥もしや、こやつ‥狐狸の化身ではないかとソォーッと後ろに廻ってみたが、尻尾がないので安心した。聞いたところによれば、彼女は早朝、五色ヶ原山荘を発って一の越から黒部湖に下るとのことであった。我々もコースが同じと、旅は道連れと三人で無事！！黒部湖に到着。

〈追記〉このコースは、人があまり通らないためか荒れていることが多いので、歩こうと思われる人は「一の越山荘」に問い合わせからにしたらいいと思う。（一の越山荘が管理されているのでは…？）

（写真はインターネットから引用）

会員からの登山レポート

奥又白池より前穂高岳

10.9～10.10
H･Kと同行者１名

【行　程】

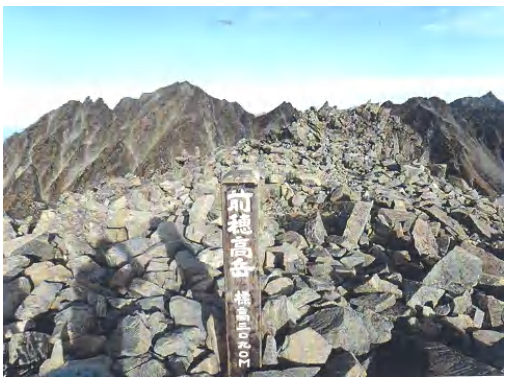
1 日目　上高地 6：00　新村橋 8：30　中畠新道分岐 9：30　奥又白池 11：30～12：00
A 沢のコル 15：00（ビバーク）

2 日目　A 沢のコル 6：00　明神岳主峰手前コル 8：00　A 沢のコル 9：30
前穂高岳 10：10～10：40　岳沢ヒュッテ 12：30～13：00　上高地 15：30

以前から行きたかった奥又白池から明神岳、前穂高岳（未踏の峰）に挑んだ。上高地ターミナルより多くの登山者と一緒に歩き出したが、新村橋よりパノラマ新道方面の登山者は我々のみと静かになった。新村橋より１時間後、奥又白池の支沢の出合より中畠新道の付いている急な尾根を約１時間登ると、右手に奥又白沢にの上に前穂北尾根のⅡ峰からⅥ峰と屏風岩がピーカンの下にとても綺麗に目に飛び込み、登山意欲が湧いてきました。

急登が終わると、草付き斜面の上の小さな尾根上にある奥又白池に突然飛び出した。池の水はとても綺麗で、風もなく鏡のような水面に「逆さ前穂高岳」が映っていた。しかし、紅葉にはまだ早い。池畔で大休止後、左手上の急なガレ場が続く A 沢を落石に気をつけながら 2,950mのコルを目指す。ザックが重く（16kg～18 kg）予定より１時間遅れでビバーク予定の A 沢のコルに着いた。

夕食後、明朝早く明神岳の偵察をするため、早々にシュラフに入り横になるが、ほとんど眠れずに朝を迎えた。朝 6：00、風の強い中テントを撤収し明神岳主峰を目指したが、予想以上に時間がかかり、最終バスの時間が気になって主峰手前のコルで引き返した。



前穂高岳に登り、北尾根上部の偵察と、今回登ってきた奥又白池のルートと山岳展望を楽しんで重太郎新道を下り、新しくなった岳沢ヒュッテで冷えたビールを飲み、明神岳Ⅴ峰支尾根の取り付を確認し、観光客でごった返す上高地に下って梓川畔から憧れの明神岳の雄姿を眺め、帰路についた。

《追記》明神岳Ⅴ峰～主峰の縦走は一般ルートではない。又、すばらしい奥又白池をベースに前穂北尾根を登りたい。

三島野スポーツクラブ会報を　より豊かに、より楽しいものに

あなたの思い出の山――――見事な景色を楽しんだ山行。雨の中の苦行を経験した山。自分の力を見直した登山。綺麗な高山植物に出会った山。道を間違えたり忘れ物をしたり、アクシデントに戸惑った山旅。自慢できるようなはなし。自慢できないようなはなし。etc。

そんなことをチョット書いてみませんか。そんなはなしを読んで、聞いて、知って、また山に出かけたくなる。そんな会報をみんなでつくりましょう。

会員からの登山レポート

西穂独標(2701m)山行記

2011.10.20　T・K

10/8～9 の戸隠山交流登山での蟻ノ塔渡と剣ノ刃渡で縮み上がった○○も癒えて、翌々週の 10/23 に控える雨飾山まではまだ間が有る所から、新聞紙上で称名滝の紅葉が真っ盛りとの写真報道と 10/19 に偶然会った先輩ご夫妻の「今日ネ、独標へ行って来たヨ！」の一声に触発されて、またと無い好天続きで快晴との予報に後押しされ 10/20 朝５時の起床時に、今日は西穂高岳・独標と決め、隣に寝ているカミサンをたたき起こして急ぎ山行の準備を済ませて愛車バンガードに飛び乗った。(カミサンも昨年 9/4 の交流登山のデーターを読み起こすと共に、山と高原地図、岐阜県の山　などを調べてムードを盛り上げて来ていましたので即決でした。)

６時 40 分自宅発で９時過ぎ鍋平駐車場着（ここから上が紅葉真っ盛りでした)、ＪＡＦ10%割引で新穂高ロープウエーの鍋平高原駅から乗車。西穂高口駅（ここまでは紅葉見物の観光客も多くロープウエーも臨時便が出ているほど）を出て９時 50 分歩行開始（登山客はまばら)。雲ひとつ無い快晴でスタートは快調そのもの。11 時西穂高山荘着、11 時 40 分西穂丸山（ここからは真っ青な空に映えてそそり立つ独標・ピラミッドピーク・西穂高岳に息を飲む)、12 時 50 分独標頂上に立つ。平日と有って登山客はまばらで頂上での写真撮影も余裕・・北西方向に聳える笠ケ岳、抜戸岳、弓折岳と続く稜線をバックに１枚。また奥穂高岳、北穂高岳と続く険しい岩稜をバックにもう一枚。赤シャツに紺のバンダナだからキット映りは良かろうと帰宅してからのデジカメプリント期待が膨らみました。帰路も登山道を行く客はマバラで 15 時西穂高口駅着、ロープウエーの臨時便乗車で 15 時 15 分に鍋平高原駅へ戻り、高原駅前広場で名物の生のシンセサイザー演奏を聴きながらワサビソフトクリームをほおばり、改めて紅葉真っ盛りの秋を堪能したものでした。途中割石温泉（飛騨市の老人保養施設とかで入浴料は 400 円/人）に入ってから行きつけの“半兵衛”さんへ立ち寄ってエネルギーを補給した後、無事帰宅しました。メデタシメデタシ。

（その後、10/23 に企画された雨飾山山行が雨で中止となりましたので、行ってきて良かったとの思いが一入でした。次の天蓋山山行が無事晴天に恵まれますように・・・お祈り・・。）

おわり

2012 来年の企画の検討について

〈世話人会より〉

いよいよ今年のシーズンも終わりに近づいてきました。雨に断たれた企画もありましたが、けっこうバラエテェーに富んだ企画が実施されたと思っています。もちろん 100%の会員の要求が満たされることは困難ですが、よりそれに応えられる企画を 2012 年に向けて検討したいと思います。

例年、アンケートをとり、それを参考にして立案し、総会で確認してきました。今回はアンケートは昨年の結果と、さらに、会員登録時に出された「行きたい山」を参考にしたいと思っています。それらの資料を会員に送付し、あらたな希望があれば世話人会に届けてもらうことにしました。ご理解とご協力をお願いします。

たくさんで木曽駒ヶ岳に立ちました

冬・スキーに挑戦しませんか

12 月から３月はじめ頃までは山に雪が降り積もり、登山・ハイキングはいやが上にもチョット足が遠退きませんか？もちろん“全く無し”ではありません。

そんな季節に「スキーにチャレンジ」してみませんか。白馬山麓、妙高山麓、志賀高原、立山山麓などの冬山を体験する機会ともなります。

初心者、初級者　大歓迎。その道の指導者が丁寧に“手取り、足取り”教えてくれます。２日から３日（連続でもなくても）ゲレンデに出ればそれなりに滑降できるようになります。

今シーズンの企画・日程は次号会報で案内します。お問い合わせ or 相談は林　憲彦、堀井泰則まで、お気軽に。《50 歳 60 歳は未知への挑戦が可能な年齢です》

11 月の世話人会は

7 日(月)・21 日(月)です。ご出席をおねがいします。また、会員はどなたでも自由に出席でき「登りたい山」「運営について」などの要望を言うことができます。

気軽に遊びに来てください。**尚、開会時間は 7 時 00 分です。**

編集後記

◇ 10 月 22 日～23 日の「大渚山と雨飾山」は雨天のため中止しました。編集子は雨飾山に 3 回登頂しましたが晴天だったことは一度もありませんでした。雨の多い山なのですネ。

◇ 「ヤセ尾根の恐怖がイッパイ」の戸隠山山行報告。“二度と行きたくない”くらい恐い思いをしても、いつかまた登るんです。達成感や景色が忘れられなくて…。Ａさんの一文が語っています。

◇ 剱岳はツライ山です、早月尾根は。2,200ｍの標高差ですから。体力を強化するか、もう一泊の余裕を持つか、ですね。

◇ 3 人の会員の「登山レポ」が寄せられました。読んで、地図を広げて、“そのルート”をたどってみました。

◇ もう忘年会の案内を出す時期になりました。今回は二部構成です。第二部のみ参加も可です。

会報についてのご意見などお寄せください。山の出来事の面白い話も。
堀井まで　E メールアドレス ho-748-6@p1.tcnet.ne.jp へ　FAX 25-2792